

フランス教育学会研究懇話会 2025 年 9 月 21 日（日）

立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム 13 時から 16 時 対面のみ

フランスの高等教育における汎用的コンピテンシー（ソフトスキル）の展開：グランド・ゼコール（技師学校）の事例 *Développer les compétences transversales (soft skills) dans l'enseignement supérieur français. Le cas des écoles d'ingénieurs*



講演者：フランスのロレーヌ大学准教授

Yamina Bettahar

社会学者、科学史の研究者

- ・ 汎用的コンピテンシー
- ・ フランスの高等教育改革
- ・ 学生の国際移動

Bettahar Yamina & Choffel-Mailfert Marie-Jeanne (éds.), 2014.
Les Universités au risque de l'histoire. Principes, configurations, modèles, Nancy, PUN.

指定討論：夏目達也氏（桜美林大学）、通訳：大場淳氏（広島大学）

(1) プログラム

- ・ 12 時半：受付
- ・ 13 時：開始。趣旨説明
- ・ 13 時 10 分：ベタアール氏の講演（通訳あり）
- ・ 14 時 20 分：夏目氏の指定討論
- ・ 14 時 40 分：ベタアール氏の回答
- ・ 15 時：全体討論（通訳あり）

* 誰でも参加可

希望者のみ、17 時から 19 時まで
で大学から徒歩 15 分のところ
で懇親会（北野白梅町の串八）

(2) 講演内容

キーワード：フランスの教育制度、グランド・ゼコール、学際的アプローチ、コンピテンシー・アプローチ、ソフトスキル、知識、Parcoursup、創造性、革新、技能、態度（Système éducatif français, Grandes écoles, pluri-interdisciplinarité, approche par compétences, soft skills, connaissances, parcoursup, créativité, innovation, savoir-faire, savoir-être）

近年、社会的な実用性を重視する OECD や EU といった国際機関の動きを背景として、コンピテンシーに基づく教育改革が世界的な潮流となっている。初等・中等教育から高等教育、職業教育に至るまで、知識の伝達を中心とした従来の教育から、知識を活用して実践する力（コンピテンシー）を育成する教育への転換が図られている

日本でも、初等・中等教育の「資質・能力」や高等教育の「学士力」のように、初等・中等・高等教育にコンピテンシー・ベースが導入されてきた。

フランスでも 2000 年代より、コンピテンシーの育成を目的とするコンピテンシー・アプローチ（*approche par compétences*）が、初等中等教育や高等教育にも普及する。

フランスの大学などの高等教育機関では、若者の就職率の低さを背景として、学生が職業につくことを促す教育をめざし、コンピテンシー・アプローチが取り入れられてきている。大学が授与するすべての学位において、どのようなコンピテンシーの獲得を認証するのかを明記することが義務づけられている。

本講演ではまず、フランスの高等教育制度の概要を簡単に説明し、いくつかの理論的な概念（学際性、横断的コンピテンシー、知識との対比など）を明確にする。その上で、ロレーヌ大学で約 20 年間、工学のグランド・ゼコール（エリート養成のための高等教育機関）の学生に汎用的コンピテンシー（ソフトスキル）を習得させる教育を行ってきた経験をもとに、学生のコンピテンシー習得のプロセスに関して得られた知見を提供する。最後に、皆さんの質問にお答えし、日本とフランスの高等教育制度やそこで実施されている教育政策に関する比較を、出席者の皆さんと一緒に行いたい。エリート育成にソフトスキルは有効なのか、なぜ有効なのか、どうしたら有効なのか。

【参加ご希望の方へ】

下記の URL より参加申し込みをお願いいたします。締切は 9/14 です。

<https://forms.gle/TcgnpBfuFtZuYK4Q8>

* この会は科研費基盤研究（B）24K00380（研究代表者：細尾萌子）を使用しています。